

南足柄市立向田小学校

研究テーマ：「生きる力」を育む授業づくり ～認め合い・磨き合う場の設定と実践を通して～

1 実践の目的

令和2年度より現行の学習指導要領が実施され、子どもたちの「生きる力」を育むことが、より一層求められるようになった。昨年度までの研究では「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」をテーマを設定し、算数科を中心に取り組んできた。

「主体的に学ぶ姿」として「進んで既習を生かし、理由や根拠を提示しながら自分の考えを表現しようとする子どもたちの姿」をめざし、授業展開やめあてづくり、ふり返りなどを工夫した。めあての有用性やその作り方、話し合いの収束の仕方、多様なふり返りの方法が共有できたことは、成果として挙げられる。その成果を土台に、さらに「生きる力（時代の変化を前向きに受け止め、人生をより豊かにしていくためにどうすべきかを、主体的に考え出す力）」を育むために、今年度は、「情報を読み解き（読解力）自身のものとして活用する力（活用力）」を重点的に育成することとした。この「読解力」や「活用力」を育むため、「単元構成」と「めあてづくり」を柱に据え、国語科を中心に研究を行っている。

2 実践の内容

（１）「できた」を実感できる単元構成

国語科では、１つの単元に複数の指導内容があることが一般的である。それらの学習内容を理解し、適切に使いながら読むことができて、「読解力がついた」といえるだろう。そのためには、教師が指導内容を適切にコーディネートすること、子ども自身が

「何ができるようになるのか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を自覚し、その内容が「できた！」と実感できるようにすることが大切である。そこで、今年度は「指導内容が適切に扱われているか」、「児童の実態や思考の流れに沿って学習が配置されているか」、「児童が『できた』と実感できるように、試行錯誤の場面や知識を活用した結果を発表する場が設定されているか」などを考慮しながら、単元を構成している。

（２）子どもの思いを実現するめあて

前年度までの研究では、子どもがめあてを作ることが、主体的に学ぶ態度を育むことや、学びの焦点化による深い学びの達成に役立つことが明らかとなった。今年度も子どもが自分たち自身で「何を学ぶか」を明らかにする過程を大切にしていきたい。単元の導入部でどのような出会いをさせるのか、どのように投げかけるのかを工夫していき、よりよいめあての立て方を研究している。その単元で身に付ける力・学ぶことを明確にするためのめあて（単元のテーマ）、教材文を読み解くためのめあて（学習課題）、毎時間の学ぶこと・解決することを明確にするためのめあて（めあて）の３つについて、子どもの「知りたい」「やりたい」「解決したい」という思いをもとに構成できるようにしている。

3 実践の成果と課題

（１）単元構成の工夫

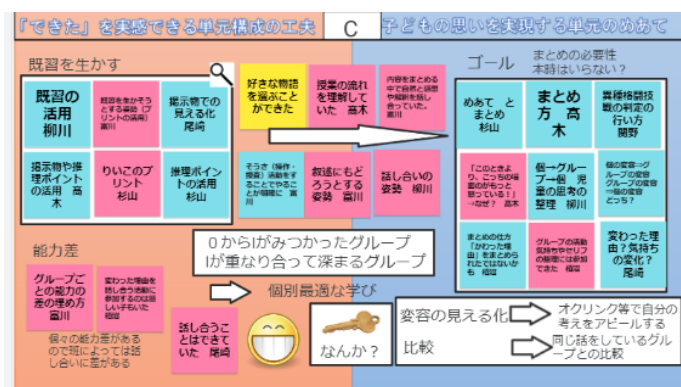
単元を構成する上で、身に付ける力を具

題名から予想した内容や疑問、物語を初めて読んだ後の感想などから学習課題を設定し、その解決のために毎時のめあてを設定することで、「子どもの思いを実現するめあて」を作っていた。例えば、1年「はなのみち」では、「どうやって花の道ができたのだろう。」という学習課題をたて、毎時「だれがなにをしたかな。」というめあてで話を読み進めた。指導したい内容と子どもが解決したい課題が合致しためあてが作られたので、活発に話し合いながら、楽しんで物語の大体をつかむことができた。このような授業の積み重ねにより、南足柄市学びづくり研究に関する実態調査(4月・12月実施)においても、主体的に学習に取り組む意識が向上した。一方で、3年「まいごのかぎ」

でも同様に授業が進められたが、後半の活用・表現の場での「めあて」と「まとめ」のあり方が議論となった。個別最適化した学びを行う際の学級全体の「めあて」の立て方や、それに対応した「まとめ」のあり方については、試行錯誤の渦中である。

(3) 研究協議の工夫

研究協議は、授業の流れと同じように「めあて(柱)にそって話し合う」「全体で共有してまとめる」「個々でふり返る」という順でJamboardで行っている。グループ協議の内容を構造的にまとめることができ協議での学びが深まったこと、いつでも他グループの考えを見ることができることなどがメリットである。



4 今後の展開

ここまでの研究で、既習を活用する授業展開や、構造的板書の有用性、終末のあり方や個別最適な学びの行い方などを議論した。今後も、学びを深める適切な学習活動について知見を広め、適切に選択できるように教師が学びを深めていく。また、子どもがいきいきと自分の考えを表現するためには、それを支える確かな学力が必要である。モジュールの活用や家庭との連携（説明学習等の家庭学習）など、様々な学びの場を作り、単元を工夫して構成していくことで、基礎・基本の確実な習得をめざしていきたい。